

第9回 再生可能エネルギーについて ～地熱発電～

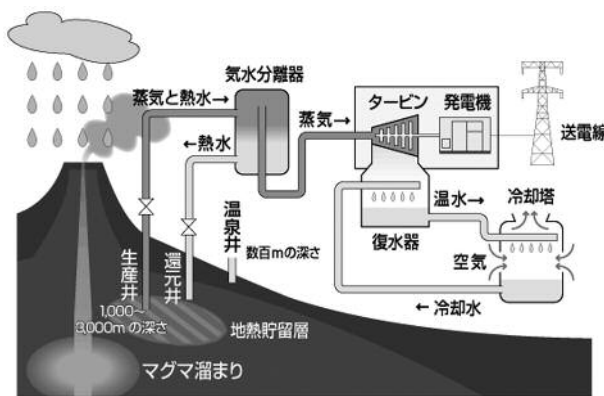


日本は世界第3位の豊富な地熱資源量を持っており、地熱発電のポテンシャルが非常に高い国です。地熱発電は、CO₂排出量がほぼゼロで、持続的に発電が可能な再生可能エネルギーであります。また、天候に左右されず安定的に発電できる「ベースロード電源」であり、発電に使用した熱水をハウス栽培などに二次利用できるといった特徴もあります。

しかし、実際に導入されている発電設備容量は、現在約60万kWにとどまっており、資源量に対する割合からすると、世界的に見ても少ないといえます。

その理由は、地熱が目に見えない地下資源であり、開発にかかるリスクやコストが高いこと、また地熱資源が北海道や東北、九州など火山地帯にかたよって存在しており、適した地域が限られているといった自然的な条件が挙げられます。加えて、地熱を利用することで温泉資源への影響を心配する地元の声があること、また、関連する法令の規制などにより、開発に必要な許認可手続きの対応が求められるケースがあるなど、社会的な面での課題もあります。

しかし、2050年カーボンニュートラル達成という大きな目標を実現するために、地熱発電のポテンシャルをもっと活かしていく必要があると判断した政府は、2030年には148万kW、つまり現在の2倍以上の導入目標を定め、積極的に導入拡大をはかることを決定しました。次回からは、そのために乗り越えるべき課題や、今後の方針等についてご説明します。



地熱発電の仕組み

国名	地熱資源量 (万kW)	地熱発電設備容量 (万kW)
アメリカ合衆国	3,000	372
インドネシア	2,779	186
日本	2,347	61 (2021年末時点)
ケニア	700	68
フィリピン	600	193
メキシコ	600	92
アイスランド	580	71
エチオピア	500	1
ニュージーランド	365	98
イタリア	327	92
ペルー	300	0

主要国における地熱資源量および
地熱発電設備容量*1※2

※1 地熱資源量は、JICA作成資料(平成22年)及び産業総合技術研究所作成資料(平成20年)等より抜粋して作成

※2 地熱発電設備容量は、BP「Statistical Review of World Energy 2018」等より抜粋

【問い合わせ先】 八雲町カーボンニュートラル推進協議会 ☎0137-62-2116

ふるさと納税の状況

12月末現在(累計令和4年4月～令和4年12月)

寄附件数 86,918件

寄附金額 1,718,363,803円



司法書士・行政書士
やまびこ事務所

●相続・遺言など 夜間・休日対応・出張もOK
お困りのことはありませんか? 初回相談無料

☎0137-63-2917

司法書士・行政書士 青沼千鶴【行政相談委員】
八雲町本町87番地2F(ふたばさん2階)

広告